

NEJIREBANE, No. 93, 15. Jun. 2001

日本のオサムシ相の形成 ---分子系統樹からの推定--- (4)

大澤省三

〒456-0032 愛知県名古屋市熱田区三本松町21-11-801

蘇 智慧

〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 JT 生命誌研究館

ヒメクロオサムシ属 (*Asthenocarabus*) とホソヒメクロオサムシ属 (*Pentacarabus*)

これらの2属は、*Leptocarabus* の亜属とされたり、*Tomocarabus* 属の中に一括して入れられてきた。ヒメクロオサムシもホソヒメクロオサムシもオサムシ全体の系統からいうと、ダルマオサムシ群の一員である。世界のこの群については、いずれ纏めて紹介するが、多数の属が古く一斉に放散分岐しており、*Leptocarabus*、*Asthenocarabus*、*Pentacarabus* もそれぞれ独立と見なしうる系統である。*Tomocarabus* にいたっては、上の3属と別系統であるのみならず、いくつもの独立の系統に分かれ、単系統ではない。

ヒメクロオサムシ (*Asthenocarabus opaculus*)

この種は、文献上では北海道の *opaculus opaculus*、北海道大雪山の *opaculus kurosawai*、本州東北部の *opaculus shirahatai* の3亜種に分割されている。北海道では普通種の駄オサで、人気のあるオサムシではない。この *opaculus kurosawai* は中根(1963)の言うように、単なる山地型であろう。一方、*opaculus shirahatai* は本州東北部の限られた山岳地帯にしかいないため、採集の一例報告にもよく顔をだす、いわゆる珍品である。

これまで、北海道各地の12サンプル、本州の6サンプルのミトコンドリアDNAを調べたが、この

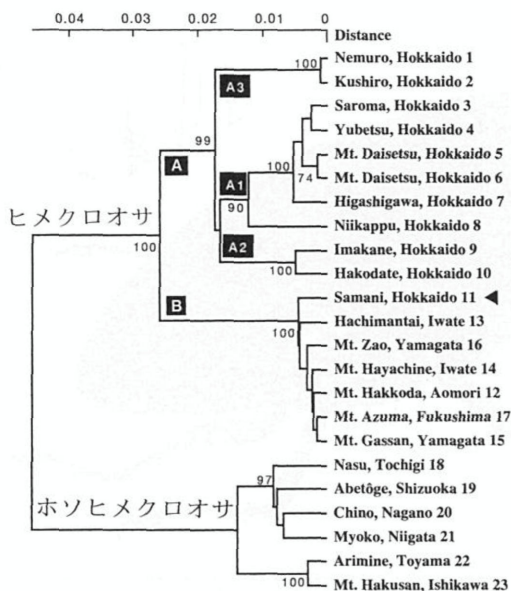


図1 ヒメクロオサムシとホソヒメクロオサムシのミトコンドリアND5遺伝子による系統樹 (UPGMA). (Su et al., 2000を改変)

次に、北海道と本州のヒメクロオサムシの関係を考えてみよう。AとBが分岐したのは、約2000万年であるから、すでにシリーズ(1)で触れたように、これらは、大陸の古日本列島域で既に2分されていたと思われる。一方は、北海道のA、他方は本州のものBの祖先だったのだろう。本州のものは、1500万年前に始まる著しい水没から残ったいずれかの島に近年まで隔離されていたものが、陸化が進むに伴い、分散したものと考えられる。それでは、北海道様似町のものの起源はどうなるのか。これには、2つの可能性がある。その1つは、A1, A2, A3の分岐以前の祖先型が、様似町付近にいて、それが近年、陸橋で本州へ侵入したというものである(図3のModel 1)。第2の可能性は、本州のものが、近年様似町付近へ入ったという考えで(図3のModel 2)、現在はどちらも言えないが、第2のほうがありそうに思える。

ホソヒメクロオサムシ (*Pentacarus harmandi*)

この種は、本州中部地方(西南部を除く)から、関東の山地帯に分布する。幾つかの亜種に分けられているが、ミトコンドリアDNAの結果と、どのような関係にあるか不明なので取り上げない。

シリーズ(1)書いたように、大きく2系統が存在する(図1, 2)。第1の系統Aは、様似のものを除くすべての北海道産が入る。これらは、さらに約1300万年前、ほぼ同時3亜系統(A1, A2, A3; DNAの差は3.6%)に分岐している。北海道島の形成に関連した地理的隔離の結果と思われる。多分、大陸の古北海道域にいたものが、大陸から、古東北日本弧として分離、それに続く多島化時代に陸地として残った北海道の何処かの島にいたものが、複雑な陸化と海進の結果、現在の分布域が形成されたのであろう。地史との関係は、さらなる考察は必要だが、私たちの力量ではなかなか難しい。上に書いたように、大雪山のものは、他の3産地のものと共にA1に入り、独立の亜種である証拠は得られない。

第2の系統は、本州のもの全てと、驚くことには、北海道様似町のものが入る。図1からも明らかのように、全ての産地のミトコンドリアDNAの差が極めて少なく(1%以下)、それらの分散は200万年前以降の出来事である。

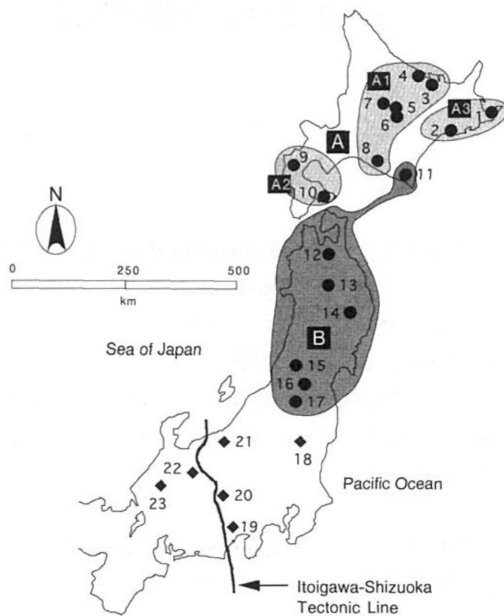


図2 ヒメクロオサムシとホソヒメクロオサムシの産地と分布境界。図中の番号は図1の産地に対応。(Su et al., 2000より)

DNAでは2系統があり、その境界はフォッサ・マグナの西の境界（糸魚川-静岡構造線）にあるようで、2系統の分岐は、約900万年前と計算される。これは西日本弧と、東日本弧が繋がり始めた時期に当たるから、中部または関東の何れかに隔離されていた祖先が、東または西に分布を拡大したものと想像される。

ヒメクロオサ、ホソヒメクロオサの起源は、古く、4000-3000万年前に遡るが、大陸に同種がないばかりか、これまで大陸の多数のダルマオサの種を調べたが、それぞれの系統から、別の種が分岐している形跡は全くない。ある種が分化してから、地理的隔離などで、次々と新しい種が生まれるという図式は、少なくともここでは当てはまらない。この点に関しては、後にその進化的意義を含めて詳しく述べる予定である。

参考文献

SU, Z.-H., TOMINAGA, O., SAITO, S., KIM, C.-G., OSAWA, S. (2000). Phylogeny of *Tomocarabus opaculus* (Coleoptera, Carabidae) as deduced from mitochondrial ND5 gene sequences. *Elytra*, 28:13-20.

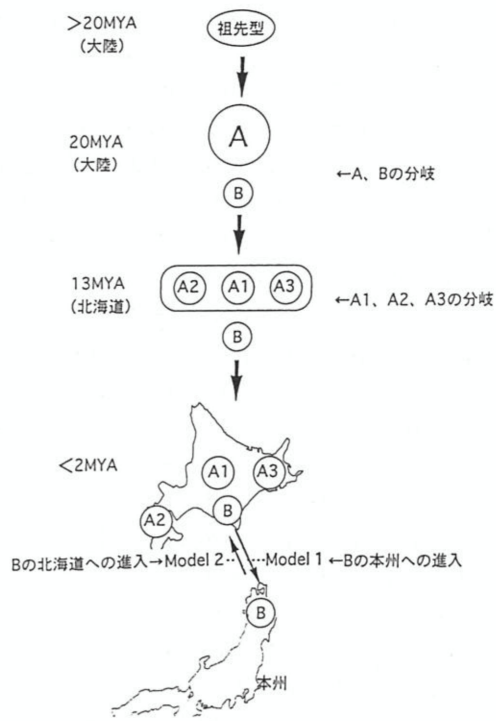


図3 ヒメクロオサの起源。

(おおさわ しょうぞう・Zhi-Hui SU)

三重県産コメツキムシの記録 (6) 官能健次氏の蒐集資料について

岸井 尚

〒569-1044 高槻市上土室 1-10, 6-410

三重県のコメツキムシについては、生川展行氏と同氏の多くの友人諸氏による資料を検討する機会に恵まれ、この地域のファウナについての新しい記録のみならず、本邦全体のコメツキムシについて付加すべき重要な知見に接してきた。1999年師走に開催された本学会の総会時、三重県菰野町にお住まいの官能健次氏より、これまでに採集された多量のコメツキムシ標本の同定を依頼されたが、この中で三重県下で採集されたもの88種について報告する。この中には新名の必要なものが3種あり、近く命名記載を考えている。また他府県からの資料で記録すべき興味有るものがあり、その内若干については末尾に記録する。なお、快く研究を委託された官能さんには深く謝意を表すると共に、筆者の両眼手術などで折角の貴重な資料の内容発表が遅れたことをお詫びする。

Pectocera hige hige KISHII, 1993 ヒゲコメツキ

三重郡菰野町朝明溪谷, 1♂, 23.VII.1993; 同 竹成, 1♂, 1♀, 2.VI.1984; 1♀, 15.VI.1984; 1♀, 30. VI. 1989; 同 雲母峰, 1♀, 3.VI.1992; 同 御在所山, 1♀, 28.V.1966.

Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus (MOTSCHULSKY, 1861) サビキコリ

三重郡菰野町永井, 3♂♂, 1♀, 13.VI.1997; 同 竹成, 1♀, 2.VII.1984; 四日市市尾平町, 1♂, 3♀♀ 29.IV.1966; 1♂, 5.V.1966; 1♀, 10.V.1966.

Agrypnus (Agrypnus) cordicollis (CANDÈZE, 1865) ムナビロサビキコリ

三重郡菰野町羽鳥峰, 1♂, 4.VI.1998; 鈴鹿市長瀬神社, 1♂, 7.VI.1998.

Agrypnus (Sabikikorius) fuliginosus (CANDÈZE, 1865) ホソサビキコリ

三重郡菰野町永井, 1♂, 19.V.1997; 1♂, 13.VI.1997; 1♂, 29.V.1999 (at light).

Adelocera (Brachylacon) difficilis (LEWIS, 1894) シロオビチビサビキコリ

尾鷲市桃頭島, 1♀, 4.V.1996; 熊野市楯ヶ崎, 1♂, 2♀♀, 22.IV.1999.

Lacon (Lacon) parallelus parallelus (LEWIS, 1894) コガタノサビコメツキ

三重郡菰野町竹成, 1♂, 5.VII.1984.

Lacon (Alaotypus) maeklinii maeklinii (CANDÈZE, 1865) オオサビコメツキ

亀山市野登山, 1 EX., 18.VII.1998; 一志郡美杉村平倉, 1♀, 29.VII.1965.

Cryptalaus berus (CANDÈZE, 1865) ウバタマコメツキ

三重郡菰野町竹成, 1♂, 1986; 四日市市尾平町, 1♀, 16.I.1966.

Tetrigus lewisi CANDÈZE, 1873 オオクシヒゲコメツキ

三重郡菰野町竹成, 1♀, VII.1987.

Prodrasterius agnatus (CANDÈZE, 1873) マダラチビコメツキ

四日市市尾平町, 2 exs., 14.VI.1978; 同 高角, 1ex., 16.IV.1982.

Homotechnes brunneofuscus (NAKANE, 1954) チャグロヒサゴコメツキ(図1)

度会郡大内山村南亦山, 1♂, 21.V.1998.

三重からは既に知られているが少ない。

Homotechnes motschulskyi subsp. nov. ミヤマヒサゴコメツキ亜種

員弁郡藤原町タテ谷, 6♂♂, 1♀, 23.V.1997.

藤原町の御池岳周辺にあるタテ谷・コクルミ谷(三重県藤原町), 真ノ谷(滋賀県永源寺町)からは今回のものを含め, 本種の極めて多くの個体(96 exs.)が久居市の秋田勝己氏及び津市の乙部 宏氏などを通してこれまでに筆者の元に寄せられており, これらは全て同じ亜種個体群と見なされる。

三重県からは美杉村南部の平倉地域からすでに亜種 *kawasei* OHIRA, 1995 ヒラクラミヤマヒサゴコメツキが記載されているが, この亜種の原因には藤原町 Kokurumi-dani 産の3♂♂, 1♀が副模式標本として含まれている。筆者の検討の結果では, 平倉地域の個体群と御池岳周辺の個体群間には両性の生殖器構造で違いが認められ, 別亜種群に分けるべきものと考えられるので, 近く別に報告したい。

Ascoliocerus saxatilis saxatilis (LEWIS, 1894) ヒラタクロコメツキ

員弁郡藤原町篠立三国谷, 1♂, 29.IV.1996.

Nothodes marginicollis (LEWIS, 1894) ウスチャイロカネコメツキ

尾鷲市桃頭島, 1♀, 4.V.96.

Limoniscus atricolor (LEWIS, 1879) クロカネコメツキ

三重郡菰野町田光, 1♂, 3.V.1999.

三重県からの記録は既にあるが最近の報告例はなく, 他の地方でも以前と比べて記録が少なくなったように思われる。早春の頃, 里山の近くでトラフコメツキなどと共に毎年のように若干の個体に接する機会が多かったように記憶しているが, どちらも絶滅危惧種とは言わぬまでも大変少なくなってきたようである。

Limoniscus montivagus (LEWIS, 1894) ミヤマカネコメツキ

多気郡宮川村明神岳, 1♂, 4.VII.1998.

Limoniscus vittatus (CANDÈZE, 1873) タテスジカネコメツキ

員弁郡藤原町藤原岳, 1♂, 24.IV.1966; 同 タテ谷, 1♂, 2.V.1997; 三重郡菰野町切畑, 1♂, 1♀, 12. IV. 1998.

Limoniscus imitans (LEWIS, 1894) タテジマカネコメツキ

度会郡大内山村南亦山, 1♂, 21.V.1998.

従来, 前種のシノニムと見なされることが多かったが, 別種と見なすのが妥当であろう. 一般に小型でスリムな感じがするのが本種であるが, 同定には注意を要する.

Limoniscus kraatzi nihonicus (KISHII, 1966) フタキボシカネコメツキ (図 2)

員弁郡藤原町藤原岳, 1♂, 24.IV.1966.

三重県からの報告例が見あたらないので, 多分この資料が最初のもと思われる. 本州と四国各地から記録されているが稀少種と言えよう. 早春, カエデの花などで採集されることが知られている. 原名亜種が朝鮮半島及び中国東北部, ロシア沿海州に分布し, 九州では対馬から本邦亜種の記録がある. 最近, 韓国の済州島の資料を見ているが, これは原名亜種であった.

Limoniuss eximius LEWIS, 1894 ムラサキヒメカネコメツキ

員弁郡藤原町藤原岳, 1♀, 27.V.1999; 三重郡菰野町田光, 3♂♂, 1♀, 3.V.1999.

スペインの A.SANCHEZRUIZ (1996) の研究で, 従来 *Kibunea* 種とされていたヨーロッパ産の *Elater minutus* LINNAEUS が *Limoniuss* ESCHSCHOLTZ, 1829 の属模式種としての CURTIS (1838) による指定が明らかになり, 次の種と共に *Kibunea* の属名は *Limoniuss* に変更された.

Limoniuss approximans LEWIS, 1894 キアシヒメカネコメツキ

員弁郡藤原町藤原岳, 1♂, 7.V.1999.

最近, 本種に極めてよく似た別種 *narukawai*, *kouichianus* などが知られており, 特に前者は亀山市の野登山が副模式標本の産地なので同定には注意を要する. 本種は 3 種の内でもっとも大きく強固な感じで, 一般に脚部全体が明瞭な黄赤色である.

Denticollis nipponensis nipponensis OHIRA, 1973 ベニコメツキ

員弁郡藤原町藤原岳, 1♂, 1♀, 3.V.1978; 1♀, 3.VI.1978; 1♂, 7.V.1999; 同 坂本谷, 1♂, 30.IV.1999; 同 北勢町悟入谷, 1♂, 17.V.1997; 度会郡大内山村南亦山, 1♂, 1♀, 8.VI.1997.

Denticollis miniatus (CANDÈZE, 1885) ミヤマベニコメツキ

員弁郡藤原町タテ谷, 1♀, 16.VI.1996; 一志郡美杉村平倉, 1♀, 4.V.1998.

Harminius (Harminius) nihonicus KISHII, 1979 ニホンムネスジダンドラコメツキ (図 3)

多気郡宮川村明神岳, 1♂, 4.VII.1998.

三重県からは既に記録があるが, 筆者の手元にある奈良県の大台ヶ原山などでの多くの採集例に比べると少ない.

Stenagostus umbratilis (LEWIS, 1894) オオツヤハダコメツキ

員弁郡藤原町藤原岳, 1♂, 10.VIII.1966; 三重郡菰野町竹成, 1♀, 4.VII.1984; 1♀, 19.VII.1985; 亀山市野登山, 1♂, 11.VIII.1998; 一志郡美杉村平倉, 1♀, 29.VII.1965.

Hemicrepidius (Hemicrepidius) secessus secessus (CANDÈZE, 1873) クロツヤハダコメツキ

員弁郡藤原町藤原岳, 2♂♂, 6.VII.1967; 三重郡菰野町小岐須溪谷, 1♀, 22.VI.1984; 亀山市野登山, 2♂♂, 28.VII.1996; 1♂, 18.VII.1998; 鈴鹿市長瀬神社, 3♂♂, 7.VI.1998; 多気郡宮川村明神岳, 1♀, 4.VII.1998; 尾鷲市三木崎, 1♂, 1♀, 23. VI.1996.

Hemicrepidius (Hemicrepidius) sinuatus sinuatus (LEWIS, 1894) コクロツヤハダコメツキ

員弁郡藤原町藤原岳, 3♂♂, 6.VII.1967.

Hemicrepidius (Hemicrepidius) desertor desertor (CANDÈZE, 1873) ヒメクロツヤハダコメツキ
 亀山市野登山, 1♂, 1♀, 28.VII.1996.

Hemicrepidius (Miwacrepidius) subcyaneus (MOTSCHULSKY, 1866) ルリツヤハダコメツキ
 員弁郡藤原町藤原岳, 1♀, 18.VI.1978.

Hypoganus miyatakei OHIRA, 1966 ミヤタケツヤヒラタコメツキ (図5)
 亀山市野登山, 2♀♀, 11.VIII.1998.

本種の三重県からの記録としては、今回と同じ野登山から生川展行氏により2年前の8月17日に2頭の雄が採集されて以来のものである。これまでに報告されている府県は新潟から熊本まで広いが、得られた個体数は何れも少ない。

Corymbitodes gratus (LEWIS, 1894) ドウガネヒラタコメツキ

員弁郡藤原町篠立三国峠, 2♀♀, 29.IV.1996; 三重郡菰野町湯ノ山, 1♂, 1.V.1966; 亀山市野登山, 2♀♀, 1.V.1997; 多気郡宮川村父ヶ谷, 2♀♀, 29.IV.1998; 同 総門山, 1♀, 29.IV.1997.

Corymbitodes kiiensis OHIRA, 1999 キイホソヒラタコメツキ
 亀山市野登山, 1♂, 1.V.1967.

一昨年(1999), 和歌山県生石山から記載されたばかりの種であるが、従来の報告にある他のホソヒラタコメツキ類に混同されて記録された可能性の強い種である。特に *obscuripes* コゲチャホソヒラタコメツキの上翅が暗色のものは紛らわしい。本属には本種に極めてよく似た別種が青森県から石川県の日本海側の山岳地に分布しており、近く記載したいと考えている。なお、三重県からの報告は初めてのものとなる。

Corymbitodes concolor (LEWIS, 1894) ホソヒラタコメツキ

員弁郡藤原町タテ谷, 1♀, 11.V.1997; 同 藤原岳, 1♂, 7.V.1999.

Selatosomus (Eanoides) puerilis (CANDÈZE, 1873) シリプトヒラタコメツキ

三重郡菰野町切畑, 1♀, 12.IV.1998; 亀山市野登山, 1♂, 3.VI.1978; 度会郡紀勢町柏野, 1♀, 30.V.1999.

すでに筆者が述べたように(ねじればね, No.79: 1, 1998), 本種の実体については問題があり、少なくとも本邦には2種の混棲が見られる。ポーランドの D. TARNAWSKY (1995) はCANDÈZE (1873) の同定ラベルを持つLectotypeを検した上で雄生殖器を図示した(1995: 154, fig.419)。本邦産の個体と比較したときペニス中片の形状が著しく異なり、これまでに検した多くの個体中に同じと思われるものはない。一方、側片形状では TARNAWSKY の図示したものに近い個体群と異なる個体群が明らかに存在する。これらの中で少なくとも本州の中央高地帯を中心とする地域に分布する個体群は明らかな別種と見られ、これは近く記載したいと考えている。

属名については筆者(1966)は前胸腹板側縁線が全長にわたり明瞭に二重状であることと、雄生殖器構造の特異性などから *Eanoides* を新設したが、TARNAWSKY (1995) は *Selatosomus* 属のシノニムとみなした。筆者は体形が極めて小型 (*Selatosomus* s.str.では世界最小)で、旧北区の寒冷期に発展し、現在は山岳地や高緯度地域に多く見られるレリック的コメツキの代表的なものとして知られるこの仲間としては、比較的暖地である長崎を原産地とする特異な進化をしたものと考えており、雌の産卵管が極めて太短く、貯精囊内の角質部構造では *Selatosomus* 属と同質であることで、上記のように亜属と見なすのが妥当と考える。

Paraphotistus niger (MIWA, 1928) クロオオヒラタコメツキ

員弁郡藤原町藤原岳, 1♂, 23.IV.1967; 同 タテ谷, 1♂, 1♀, 11.V.1997; 尾鷲市桃頭島, 1♀, 4.V.1996.

Actenicerus giganteus KISHII, 1975 ヨコヅナシモフリコメツキ (図6)

三重郡菰野町雲母峰, 1♂, 21.V.1993.

山形から広島までのほぼ10都府県で記録されている大型種で, 草原を伴った中程度の丘陵的な山頂部で採れることが多いようである.

Actenicerus kunimi (KISHII, 1966) クニミシモフリコメツキ (図7)

員弁郡藤原町藤原岳, 1♂, 5.VI.1966.

大きさや体形は前種に似ているが, 上翅などにこの仲間特有のシモフリ状斑紋は認められず, 緑がかった光沢が著しく(希に真鍮光沢のものもある), 上翅の点刻縦線は浅く消失気味で, 雄生殖器の側片末端側方突起先端は前種より短く鈍い. 記録された地域も個体数も前種より少ないが, 愛知・三重・奈良・和歌山が分布の中心地のようなようである.

Actenicerus pruinus MOTSCHULSKY, 1861 シモフリコメツキ

員弁郡藤原町タテ谷, 1♀, 11.V.1997; 三重郡菰野町雲母峰, 1♀, 21.V.1993; 亀山市野登山, 1♂, 25.V.1993; 1♂, 1.V.1997; 2♂♂, 1♀, 25.V.1997; 一志郡美杉村平倉, 4♂♂, 1♀, 4.V.1998.

Actenicerus aerosus aerosus (LEWIS, 1879) ヘリアカシモフリコメツキ

員弁郡藤原町タテ谷, 2♂♂, 1♀, 11.V.1997; 三重郡菰野町切畑, 1♂, 12.IV.1998; 亀山市野登山, 1♂, 3.VI.1978; 伊勢市剣峠, 1♀, 22.V.1999; 一志郡美杉村平倉, 1♂, 4.V.1998; 多気郡宮川村明神岳, 1♀, 4.VII.1998; 度会郡大内山村南亦山, 1♂, 8.VI.1997.

Acteniceromorphus fulvipennis (LEWIS, 1894) アカハネフトヒラタコメツキ

員弁郡北勢町青川峡, 1♀, VI.1979.

Calambus mundulus (LEWIS, 1879) チャグロヒラタコメツキ

三重郡野町神明溪谷, 1♀, 15.VI.1996 (at light).

Calambus japonicus (FLEUTIAUX, 1902) クロツヤヒラタコメツキ

員弁郡藤原町タテ谷, 1♂, 1♀, 23.V.1997; 亀山市野登山, 1♀, 25.V.1997; 多気郡宮川村明神岳, 1♀, 4.VII.1998.

Hayekpenthès pallidus pallidus (LEWIS, 1894) ホソキコメツキ

多気郡宮川村父ヶ谷, 1♂, 12.VII.1996.

Haterumelater bicarinatus bicarinatus (CANDÈZE, 1873) チャイロコメツキ

多気郡宮川村父ヶ谷, 1♂, 12.VII.1996.

Reitterelater rugipennis (LEWIS, 1894) アラハダチャイロコメツキ

亀山市野登山, 1♂, 17.VI.1997 (at light).

Ampedus (Parelater) canalicollis canalicollis (LEWIS, 1894) ミゾムネアカコメツキ

四日市市尾平町, 1♀, 4.II.1966.

Ampedus (Miwaelater ?) carbunculus (LEWIS, 1879) ヒメクロコメツキ

員弁郡藤原町藤原岳, 1♂, 23.IV.1967; 同 北勢町悟入谷, 1♂, 1♀, 17.V.1997; 三重郡菰野町田光, 1♀, 3.V.1999; 同 雲母峰, 1♀, 9.V.1996; 同 切畑, 1♂, 12.IV.1998; 同 羽島峰, 1♀, 4.VI.1998; 亀山市野登山, 1♂, 1♀, 3.VI.1978; 尾鷲市三木崎, 1♀, 7.V.1995; 同 須賀利町, 1♂, 13.I.1996 (落葉下); 熊野市楯ヶ崎, 1♂, 1♀, 3.VI.1978; 1♀, 22.IV.1999.

Ampedus (Ampedus) orientalis (LEWIS, 1894) アカコメツキ

多気郡宮川村父ヶ谷, 2♀♀, 29.IV.1998; 伊勢市剣峠, 1♀, 22.V.1999; 度会郡大内山村南亦山, 1♀, 28.IV.1996.

Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus (CANDÈZE, 1873) アカハラクロコメツキ

亀山市野登山, 1♂, 3.VI.1978; 四日市市尾平町, 1♀, 29.XII.1965; 1♂, 6.I.1966; 1♂, 20.II.66; 南牟婁郡紀和町布引ノ滝, 1♂, 11.I.1996; 熊野市楯ヶ崎, 2♂♂, 22.IV.1999.

Ampedus (Ampedus) vestitus vestitus (LEWIS, 1894) ケブカクロコメツキ

伊勢市剣峠, 1♀, 22.V.1999.

Ampedus (Ampedus) tenuistriatus (LEWIS, 1894) ホソクロコメツキ

員弁郡藤原町タテ谷, 1♂, 1♀, 11.V.1997; 亀山市野登山, 1♂, 1.V.1997.

Ampedus (Ampedus) japonicus japonicus SILFVERBERG, 1977 アカアシクロコメツキ

亀山市野登山, 2♀♀, 3.VI.1978; 1♂, 15.XII.1996; 一志郡美杉村平倉, 1♂, 4.V.1998; 度会郡大内山村南亦山, 1♀, 28.IV.1996; 2♀♀, 21.V.1978; 1♂, 1.V.1997.

Ampedus (Ampedus) tamba KISHII, 1976 タンバコクロコメツキ

度会郡大内山村南亦山, 1♀, 8.VI.1997.

Akitsu aquilus aquilus (CANDÈZE, 1873) クリイロニセコメツキ (図10)

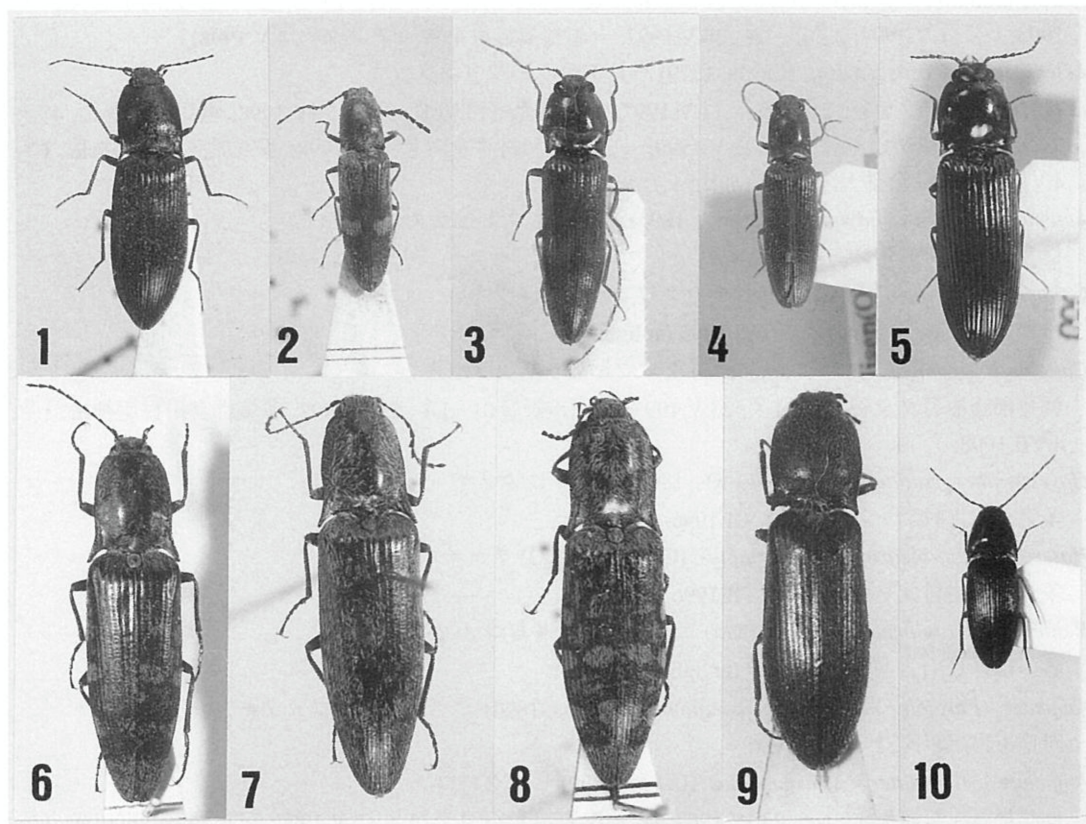


図1-10: 1. チャグロヒサゴコメツキ(♀, 13.2mm); 2. フタキボシカネコメツキ(♀, 9.7mm); 3. ニホンムネスジダンダラコメツキ(♀, 12.8mm); 4. ホソアカツヤコメツキ(♂, 11.1mm); 5. ミヤタケヒメツヤヒラタコメツキ(♂, 14.95mm); 6. ヨコヅナシモフリコメツキ(♂, 23.5mm); 7. クニミシモフリコメツキ(♂, 20.2mm); 8. アカアシシモフリコメツキ(♀, 19.4mm); 9. テングフトヒラタコメツキ(♀, 10.8mm); 10. クリイロニセコメツキ(♂, 8.1mm).

多気郡宮川村父ヶ谷, 3♂♂, 1♀, 12.VII.1996.

照葉樹林帯での灯火採集で得られることの多い種である。この仲間は脚付節の第1節が著しく長く、残りの3節の合計長と等しいかより長い事で見分けやすい。かつて *Anchastus* 属として扱われていたが、これは北米東南部に分布する *digitatus* LE CONTE, 1853 なる種に基づいて創設された属で、SCHWARZ (1906) がその当時知られていた東南アジア産のおおよそ、40種のこの亜科の全ての

種をこの属に含めて以来、後の研究者がこれを踏襲していたが、旧ソ連の DOLIN・GURJEVA (1976), GURJEVA (1979) により見直され、*Anchastus* 属とされた種の少なくともユーラシア大陸での分布は疑問視され、日本を含め台湾などの種の大部分は別属であるとの認識で、現在は上記の属として扱われている。

Dalopius tamui KISHII, 1957 ホソナカグロヒメコメツキ

員弁郡藤原町タテ谷, 8 exs., 11.V.1997; 伊勢市剣峠, 1♀, 22.V.1999; 一志郡美杉村平倉, 1♀, 4.V.1998; 度会郡大内山村南亦山, 1♀, 8.VI.1997.

Dalopius sp. ヒメコメツキの一種

多気郡宮川村明神岳, 1♂, 4.VII.1998.

西部の飯高町明神平及び宮川村あたりの山地に多く見られ、前種に似た体形と大きさの *Dalopius* 種で、上翅の色彩は殆ど全面的に暗黒褐色、肩部に時に不明瞭な黄褐色縦条紋が見られることもある個体群で、これまでは前種の黒化変異型と見なしてきたものである。京都・奈良・和歌山など他の地方からも *tamui* や *exilis* などに混じって採集されており、数が少ないので、これまでは上記のような扱いをしてきた。しかし最近、四日市市の横関秀行氏により採集された明神平の多数の個体を見る機会に恵まれ、その結果新しい種である可能性が大きく、更に精査の上、考察してみた。

Ectinoides insignitus insignitus (LEWIS, 1894) ヨツキボシコメツキ

員弁郡藤原町藤原岳, 1♂, 24.IV.1996; 1♀, 7.V.1999.

Ectinus higonius (LEWIS, 1894) クロムナボソコメツキ

三重郡菰野町羽島峰, 1♀, 4.V.1998.

Ectinus sepes (LEWIS, 1879) キアシムナボソコメツキ

員弁郡藤原町タテ谷, 1♂, 23.V.1997; 同 タテ谷 (鈴北岳), 1♂, 16.VI.1996; 1♂, 30.IV.1999.

Ectinus hidaensis OHIRA, 1998 ヒダムネナガカバイロコメツキ

亀山市野登山, 1♀, 3.V.1978.

最近、岐阜・奈良・愛媛からの個体で記載されたもので、三重県に分布して当然であるが、記録されるのはこれが初めてである。

Ectinus sericeus sericeus (CANDÈZE, 1873) カバイロコメツキ

員弁郡藤原町藤原岳三国谷, 1♂, 31.V.1998; 三重郡菰野町羽島峰, 2 exs., 4.VI.1998; 亀山市野登山, 1♂, 17.VI.1997(at light); 1♂, 1♀, 3.VI.1978; 一志郡美杉村平倉, 1♀, 4.V.1998; 伊勢市剣峠, 8 exs., 22.V.1999.

Nipponoelater sieboldi sieboldi (CANDÈZE, 1878) オオナガコメツキ

亀山市野登山, 1♂, 11.VIII.1998; 一志郡美杉村平倉, 1♂, 29.VII.1965; 1♂, 30.VII.1965; 多気郡宮川村父ヶ谷, 1♂, 16.VIII.1998.

Mulsanteus junior junior (CANDÈZE, 1873) ヒゲナガコメツキ

尾鷲市三木崎, 1♀, 23.VI.1996; 熊野市楯ヶ崎, 1♂, 22.IV.1999.

Vuilletus viridis (LEWIS, 1894) ミドリヒメコメツキ

四日市市尾平町, 1♂, 4♀♀, IV.1966; 2♂♂, 1♀, 29.IV.1969.

Vuilletus crebrepunctatus (NAKANE, 1959) オオミドリヒメコメツキ

亀山市野登山, 1♀, 3.VI.1978; 三重郡菰野町雲母峰, 1♀, 9.V.1996; 尾鷲市三木崎, 1♀, 7.V.1995.

Dolerosomus gracilis (CANDÈZE, 1878) キバネホソコメツキ

員弁郡藤原町藤原岳, 1♂, 23.IV.1967; 1♀, 3.V.78; 1♂, 7.V.1999; 同 三国谷, 1♂, 31.V.1998; 三重郡菰野町雲母峰, 1♂, 6♀♀, 9.V.1996; 同 神明, 1♂, 17.XI.1994; 四日市市尾平町, 1♀, 4.V.1966; 亀山市野

- 登山, 1♀, 3.VI.1978; 1♂, 1.V.1997; 伊勢市剣峠, 2♂♂, 1♀, 22.V.1999; 一志郡美杉村平倉, 1♀, 4.V.1998; 度会郡大内山村南亦山, 1♂, 8.VI.1997; 1♂, 21.V.1968; 尾鷲市三木崎, 1♂, 3.V.1978; 同 桃頭島, 6♂♂, 4.V.1996; 熊野市楯崎, 6♂♂, 5♀♀, 22.IV.1999.
- Lanecarus palustris* (LEWIS, 1894) ニセクチブトコメツキ
鈴鹿市上田鈴鹿川, 2 exs., 23.III.1997.
- Silesis musculus musculus* CANDÈZE, 1878 クチブトコメツキ
員弁郡藤原町藤原岳, 1 ex., 18.VI.1978; 三重郡菰野町鎌ヶ岳, 1 ex., 26.VII.1966; 亀山市野登山, 8 exs., 28.VII.1996; 4 exs., 18.VII.1998.
- Glyphonyx bicolor bicolor* CANDÈZE, 1893 キバネクチボソコメツキ
亀山市野登山, 8 exs., 28.VII.1996.
- Glyphonyx illepidus* CANDÈZE, 1873 クチボソコメツキ
亀山市野登山, 5 exs., 18.VII.1998; 一志郡美杉村平倉, 1♂, 4.V.1998.
- Melanotus legatus legatus* CANDÈZE, 1860 クシコメツキ
員弁郡藤原町藤原岳, 1♂, 17.VIII.1966; 1♀, 18.VI.1978; 三重郡菰野町永井, 4♂♂, 29.V.1999 (at light); 同 神明溪谷, 1♂, 25.V.1997; 鈴鹿市長瀬神社, 1♂, 7.VI.1998; 一志郡美杉村平倉, 1♂, 1♀, 29.VII.1965; 1♂, 30.VII.1965; 度会郡大内山村南亦山, 1♂, 21.V.1998.
- Melanotus lewisi lewisi* SCHENKLING, 1927 ルイスクシコメツキ
三重郡菰野町竹成, 1♂, 4.VII.1984; 1♂, 5.VII.1984.
- Melanotus correctus correctus* CANDÈZE, 1865 ヒラタクロクシコメツキ
員弁郡藤原町坂本谷, 1♂, 30.IV.1999; 1♂, 2.V.1999; 同 藤原岳, 1♂, 7.V.1999; 三重郡菰野町雲母峰, 1♂, 15.VI.1996 (at light); 亀山市野登山, 1♂, 3.VI.1978; 1♀, 25.V.1997; 伊勢市剣峠, 1♂, 22.V.1999; 一志郡美杉村平倉, 1♂, 4.V.1998; 度会郡大内山村南亦山, 1♀, 8.VI.1997; 4♂♂, 21.V.1998; 尾鷲市桃頭島, 2♂♂, 4.V.1996.
- Melanotus legatoides* KISHII, 1975 ヒメクシコメツキ
亀山市野登山, 1♀, 17.VI.1997 (at light); 度会郡紀勢町柏野, 1♂, 1♀, 30.V.1999; 尾鷲市三木崎, 1♀, 23.VI.1996; 同 桃頭島, 1♂, 4.V.1996; 熊野市楯ヶ崎, 2♀♀, 22.IV.1999.
- Melanotus senilis senilis* CANDÈZE, 1865 クロクシコメツキ
四日市市西村町朝明川, 1♂, 18.V.1997.
- Melanotus spernendus spernendus* CANDÈZE, 1873 ナガチャクシコメツキ
熊野市楯ヶ崎, 2♂♂, 1♀, 22.IV.1999.
- Melanotus eruthropygus erythropygus* CANDÈZE, 1873 コガタクシコメツキ
三重郡菰野町羽島峰, 1♀, 4.VI.1998; 亀山市野登山, 1♂, 25.V.1997; 一志郡美杉村平倉, 1♂, 4.V.1968; 度会郡大内山村南亦山, 1♂, 8.VI.1997; 1♂, 1♀, 21.V.1998; 尾鷲市三木崎, 1♀, 7.V.1995; 1♂, 1♀, 23.VI.1996; 同 桃頭島, 6 exs., 4.V.1996; 南牟婁郡紀和町布引ノ滝, 1♂, 11.V.1996; 熊野市楯ヶ崎, 9♂♂, 5♀♀, 22.IV.1999.
- Melanotus fortnumi fortnumi* CANDÈZE, 1878 マルクビクシコメツキ
四日市市西村町朝明川, 1♀, 18.V.1997.
- Spheniscosomus cete cete* (CANDÈZE, 1860) アカアシオオクシコメツキ
員弁郡藤原町藤原岳, 1♂, 18.VI.1978; 三重郡菰野町竹成, 1♂, 15.V.1984; 1♀, 11.VI.1990; 同 町永井, 1♂, 13.VI.1997; 同 田光, 1♂, 3.V.1999; 亀山市野登山, 1♀, 25.V.1997; 四日市市尾平町, 1♂, 28.V.1966; 1♂, 5.V.1966; 1♀, 14.V.1966; 2♀♀, 26.V.1966; 1♂, 11.V.1967; 尾鷲市桃頭島, 2♀♀, 4.V.1996;

南牟婁郡紀和町布引ノ滝, 1♂, 11.V.1996; 熊野市楯ヶ崎, 1♂, 22.IV.1999.

Spheniscosomus japonicus (OHIRA, 1974) ハネナガオオクシコメツキ
 亀山市野登山, 1♂, 18.VII.1998.

Spheniscosomus koikei (KISHII et OHIRA, 1956) ヒラタクシコメツキ

員弁郡藤原町三国谷, 1♀, 31.V.1994; 三重郡菰野町永井, 2♂♂, 13.VI.1997; 伊勢市剣峠, 1♀, 22.V.1999; 尾鷲市三木崎, 1♀, 7.V.1995; 同 桃頭島, 2♂♂, 4.V.1996; 南牟婁郡紀和町布引ノ滝, 1♂, 11.V.1996.

Oedostethus telluris (LEWIS, 1879) クロツヤミズギワコメツキ
 三重郡菰野町永井, 2 exs., 13.VI.1997.

Fleutiauxellus (Migiwa) curatus curatus (CANDÈZE, 1873) ミズギワコメツキ
 四日市市西村町朝明川, 1♂, 18.V.1997.

Quasimus japonicus KISHII, 1959 ニホンチビマメコメツキ
 三重郡菰野町雲母峰, 12 exs., 9.V.1996.

Yukoana carinicolis (LEWIS, 1894) ヘリムネマメコメツキ
 三重郡菰野町雲母峰, 2♂♂, 4♀♀, 9.V.1996; 度会郡大内山村南赤山, 1♀, 8.VI.1997.

Dicronychus (Platynychus) nothus (CANDÈZE, 1865) オオハナコメツキ
 三重郡菰野町永井, 2♂♂, 1♀, 19.V.1997; 5♂♂, 2♀♀, 13.VI.1997.

Dicronychus (Displatynychus) adjutor adjutor (CANDÈZE, 1873) アカアシハナコメツキ
 三重郡菰野町永井, 1♀, 13.VI.1997; 鈴鹿市長瀬神社, 3♀♀, 7.VI.1998.

Cardiophorus pinguis LEWIS, 1894 クロハナコメツキ

員弁郡藤原町タテ谷, 1♂, 11.V.1997; 三重郡菰野町切畑, 1 ex., 12.IV.1998; 亀山市野登山, 1 ex., 3.VI.1978; 鈴鹿市長沢長瀬, 1 ex., 30.IV.1997; 一志郡美杉村平倉, 1 ex., 4.V.1998.

Paracardiophorus pullatus pullatus (CANDÈZE, 1873) コハナコメツキ
 四日市市西村町, 1♂, 28.VII.1997; 同 朝明川, 11 EXS., 18.V.1997.

他府県産で特に興味ある若干種について

Elathous brunneus (LEWIS, 1894) クリイロツヤハダコメツキ
 奈良県天川村彌山, 1♂, 15.VIII.1997.

従来の記録では奈良県からは初めてのものとなる。三重県からは比較的多くの資料(6♂♂)が記録されているが、他の地域では極めて少ない。出現期が8月中旬から9月中旬という、いわゆる採集シーズンを過ぎてからのためか、得られる機会が少ないのも原因の一つかも知れない。

Limoniscus rufovittatus (OHIRA, 1963) カタモンカネコメツキ
 岐阜県根尾村能郷八谷谷, 1♂, 13.VI.1999.

タテスジカネコメツキ及びタテジマカネコメツキに似た点があるが、上翅の赤黄色縦紋が幅広く、より赤味が強いので分かり易い。本種でも雌個体では上翅の赤黄色縦紋が上翅末端まで達するのが普通である。従来の記録は少なく、新潟・長野・奈良からのみである。

Scutellathous sp. ホソアカツヤコメツキ(新種)(図4)

奈良県天川村彌山奥駈ヶ, 1♂, 10.VII.1998.

この種については筆者が度々触れているように(ねじればね, No.77:4及びNo.81:3), 同属の *S. comes* チャイロツヤハダコメツキによく似た種で、これら両者間の差異は極めて明瞭であるが、これまで適格名を持たなかったものである。他に似た複数の種があり両性の生殖器構造での区別が決め手になるので、近くこれらを纏めて発表する予定をしている。

Actenicerus yamashiro KISHII, 1998 コガタシモフリコメツキ
岐阜県根尾村能郷白山, 1♂, 1.VII.1999.

筆者が以前誤って *A. aerosus* (nec LEWIS, 1879) と見なしていた種類で、京都市のいわゆる北山地域で極めて普通にみられるシモフリコメツキであるが、他府県では少ないようである。これまでに兵庫・滋賀・福井・石川・岐阜・新潟からの少数個体を検したに過ぎない。この内、岐阜のものは今回の資料である。

Actenicerus ashiaka KISHII, 1985 アカアシシモフリコメツキ(図8)
長野県木曾福島町駒ノ湯温泉, 1♀, 26.V.1978.

前述の *A. giganteus*, *A. kunimi* 両種に良く似た大型のシモフリコメツキで、分布もまた生息状況というか採集環境も似ている。しかし、雄生殖器側片先端の側方突起部は縦に長く前2者とは明瞭に異なる。長野県からの報告例は見あたらず、これが最初と思われる。

Acteniceromorphus tengu (MIWA, 1934) テングフトヒラタコメツキ(図9)
長野県木曾福島町駒ノ湯温泉, 1♀, 26.V.1978.

本邦産のフトヒラタコメツキは当初考えていた以上に多くの種(現在13種)が存在し、しかも類似種が多いのと、他のコメツキでは分類の決め手になる両性の生殖器構造もよく似ていて、よほど経験を積み多くの個体を検しないと同定は困難である。最近の鈴木互博士からの私信では、中部山地に未知の種が分布するというので発表が待たれる。本種は三輪勇四郎先生がその学位請求論文中で記載された種で、本邦の種中もっとも珍しいものの一つと思われる。図示した雌の個体は極めて太く、雄個体のスリムな体形からすると一見別種のように見える。

Ampedus (Ampedus) yaku ohdai KISHII, 1983 オオダイクロコメツキ
奈良県天川村彌山, 1♀, 4.VI.1999; 1♀, 4.VI.1999.

大台ヶ原山・大峰山などのいわゆる台高山地では比較的採集の機会が多い種であるが、他地域からは少なく、山梨県の鳳凰山や笹子峠・徳島県剣山などでも見られるが、両性の生殖器構造が地域で微妙に異なるので、全てが同一種なのか疑問が残る、決めかねている。

参考文献

- DOLIN, V.G. et GURJEVA, E.L.(1976) New genus of Elaterid-beetles from Talissa. Dokl. AN. USSR, ser.B, 7: 645-647 (in Russian).
GURJEVA, E.L.(1979) [Fauna of USSR]. Zhuki-shchelkuny (Elateridae). Podsemeystvo Elaterinae, Tribu Megapenthini, Physorhinini, Ampedini, Elaterini, Pomachiliini. En: Fauna SSSR, Zhestokokrylye. Vol.12(4), Nauka. Leningrad: 452 pp.
KISHII, T.(1966) Elateridae of Kyoto and its adjacent regions. Biological Laboratory of Heian High School, Kyoto: 1-54 pp.
岸井 尚(1997) 三重県産コメツキムシの記録(1). NEJIREBANE, Osaka, No.77: 1-4.
岸井 尚(1998) 三重県産コメツキムシの記録(2). NEJIREBANE, Osaka, No.79: 1-5.
岸井 尚(1998) 三重県産コメツキムシの記録(4). NEJIREBANE, Osaka, No.81: 1-6.
KISHII, T.(1999) A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, No.42: 1-144.
OHIRA, H.(1995) New or little-known Elateridae(Coleoptera) from Japan (XI). Elytra, Tokyo, 27(2): 409-416.
SANCHEZ-RUIZ, A.(1996) Catalogo bibliografico de las especies de la familia Elateridae(Coleoptera) de la peninsula Iberica e islas Baleares. Documentos Fauna Iberica 2 (ed. M.A.Ramos). Museo Nacional de Ciencias Naterales, Consejo Superior de Investigaciones Cientificas, Madrid: 265 pp.
SCHWARZ, O.(1906-1907) Fam. Elateridae. Fasc. 46 A-C. In: Witsman, P., Genera Insectorum, Coleoptera, 370 pp. Fasc. 46B: 113-224(1906).
TARNAWSKI, D.(1995) A revision of the genus *Selatosomus* STEPHENS, 1830 (Coleoptera: Elateridae: Athoinae: Ctenicerini). Genus. International Journal of Invertebrate Taxonomy (Supplement). Warsaw: 1-183.



岸井 尚

略歴：1929年4月函館市生まれ。幼時期から少年時は青森市在住で昆虫採集に熱中。京都府立京科大学（現在京都府立大学）農学部卒。学校法人平安学園にて1999年3月まで教職。1987年京都府立大学より農学博士号を授与。

(きしい たかし)

石垣島のクロヒメヒラタホソカタムシ

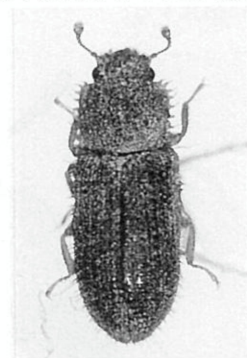
生川展行

〒513-0015 鈴鹿市木田町2399

Cicones tokarensis NAKANE クロヒメヒラタホソカタムシは、トカラ列島の中之島で得られた3頭によって、1968年に記載された種であるが、その後の正式な記録は見当たらない。

今回筆者は、石垣島で採集された個体を検する機会を得たので報告する。なお、貴重な標本を恵与いただき、標本写真を撮影していただいた稲垣政志氏並びに、本種の記録についてご教示いただいた岡田圭司氏に、心よりお礼申し上げます。

1ex., 沖縄県石垣島於茂登林道, 31.XII.2000, 稲垣政志採集. 筆者保管.
林道脇の落葉をふるいにかけて得られた。



クロヒメヒラタホソカタムシ

文献

NAKANE T. 1968, New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXVI. Fragmenta Coleopterica, (19) : 75.

(なるかわ のぶゆき)

ムネハラアカクロテントウ (和名新称) *Rhyzobius lophanthae*の
日本からの新記録

佐々治寛之

〒910-0206 福井市九岡町 10-934

斎藤琢巳

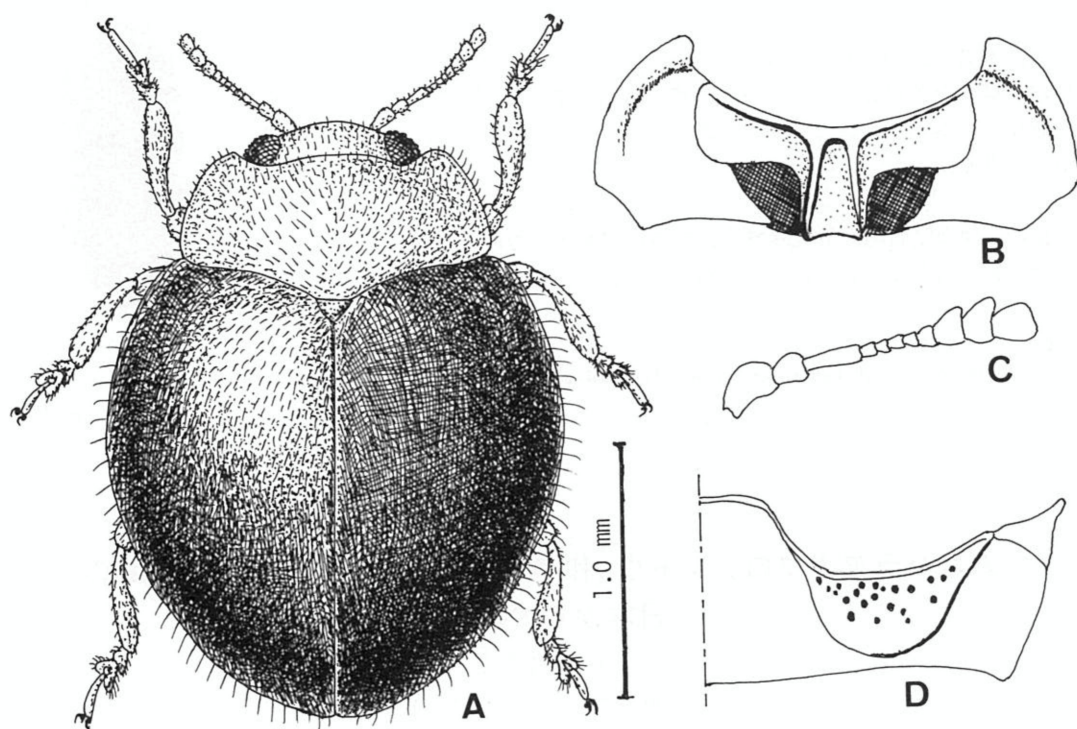
〒661-0045 尼崎市武庫豊町3-2-25 サンヴェール武庫之荘913

この種は、ねじればね No.79 (1998) に斎藤が「気になるテントウムシ」と題して写真入りで報告したものである。その時、斎藤は *Scymnus* 属 (*Pullus* 亜属) とし、文中で佐々治に同定を依頼したが多忙なため結論を保留してであると記した。

その後、2000年12月10日、日本甲虫学会大会が大阪で開催された折、斎藤は再び上記と同種と思われる標本を佐々治に提示した。日本産ヒメテントウ類のうち前胸が赤く、鞘翅が黒い種はいくつかあるが、一見していずれとも異なる。その場で同定するのをさけて佐々治が持ち帰ることにした。また追加標本が委ねられ、従来の2個体に追加して計10個体以上を佐々治が確認した。1, 2頭の標本があっても分類がむずかしい小形のテントウは種名の決定が容易ではなく、時間がかかるものである。特に触角・口器・腹面構造が精査出来ないと致命的である。

結果として、*Rhyzobius lophanthae* (BLAISDELL) と同定された。日本から初記録で和名がないのでムネハラアカクロテントウと新称したい。同属の *Rhyzobius forestieri* (MULSANT) がハラアカクロテントウの和名で報告されているので、前胸が赤褐色で区別されることからムネアカハラアカクロテントウの和名を考えたが長くなるので上のようにした。ムネとハラが赤いの意である。

一見、小形・背面被毛の点でヒメテントウ亜科の多くと類似するが、触角が長く頭幅に近いことで区別され、ヒメテントウ亜科 Scymninae ではなく、ヒラタテントウ亜科 Coccidulinae に所属する。ヒラタテントウ亜科は世界的には多くの種属が分布するが、日本ではベダリアテントウ族 (テントウムシ科の中ではむしろ異色) だけであった。最近、ハラアカクロテントウが邦産種として記録されたが、日本ではなじみの薄い昆虫である。見かけ上の区別点とハラアカクロテントウとの差異を中心に紹介する。



ムネハラアカクロテントウ *Rhyzobius lophanthae* (BLAISDELL, 1892). A. 全形図; B. 前胸腹面図; C. 触角; D. 腹部第1節腹面。

ムネハラアカクロテントウ (新称)

Rhyzobius lophanthae (BLAISDELL, 1892)

卵円形、体長1.9 - 2.6 mm。橙黄色で、頭部、前胸背板、触角、脚、腹面いずれも橙黄色～赤褐色、小盾板暗褐色、鞘翅は黒色で暗褐色の個体もある。複眼はやや粗面。触角は11節から成り、頭部の幅よりも少し短く、先端3節は明らかな球桿状(図C)。小顎肢は明らかな斧形。前胸腹板突起は強く膨隆し、幅広く、縦隆線の幅は明らかに後方に拡がる。本種の特徴的な形質は前胸上側板 (hypomeron) の側縁に沿った顕著な溝があることである(図B)。これは、ハラアカクロテントウにはない。鞘翅は黒く、その被毛は強くS字形に曲って配列され、銀白色で比較的細いが、鞘翅側縁近くに黒色の直立した剛毛が疎生する(図A)。腹部第1節の腿節線は完全で、強く湾曲し、後方は節の後端近くに達し、腿節盤の点刻は粗大で後方に平滑部を残す(図D)。付節は隠4節で、爪の基部に顕著な突起がある。腹節は6節が露見し、見かけ上の第6節後縁は雄において弱く湾入し、雌では弱く突出するが個体によってまぎらわしいものがある。

佐々治による披検個体: 1ex., 9.I.1994, 兵庫県尼崎市武庫元町東立西武庫公園, 斎藤千恵美採集(*) ; 1ex., 11.X.1996., 尼崎市武庫之荘西, 斎藤千恵美採集(*) ; 1♂1♀, 7.VI.1998, 尼崎市武庫豊町, 斎藤琢巳採集。*印はすでに斎藤(1998)に記録した個体を再録した。ほかに武庫豊町から19個体を記

録してあり、そのうち8個体を佐々治が確認した。

分布：国内での確認は兵庫県尼崎市武庫豊町附近。1994年に見出されて以降相当数が連続して採集されているので定着生息していると思われる。オーストラリア原産でカイガラムシ生物的防除の目的でカリフォルニアに1892年に移入され、北米南部に広く定着している。各種のカイガラムシを食べるようで、樹木とともに移入される可能性が高い。恐らくすでに各地に移入していると思われるので、全形図と若干の区別点を示した。

確実な区別点は(1)鞘翅黒；前胸・頭部・脚・腹面はみんな赤。(2)触角は長い、ヒメテントウム類では頭幅の2/3以下。(3)前胸上側板(前胸腹板の側方にある部分)に溝。ただし、体長3mm以下、背面被毛の小形種に適用する。

参考文献

GORDON, R. D.(1985). The Coccinellidae (Coleoptera) of America North of Mexico. J. N. Y. Entom. Soc., 93(1): 1-912.

斎藤琢巳(1998). 気になるテントウムシ。ねじればね, (79): 11-12.

(ささじ ひろゆき・さいとう たくみ)

ベッピンアカコメツキムシの雄について

岸井 尚

〒569-1044 高槻市上土室 1-10, 6-410

最近、未整理資料を見直していた際、あるアカコメツキを見て驚いた。筆者(1982)が京都の芦生演習林産の3頭の雌個体で記載発表して以来記録のない、*Ampedus (Ampedus) beppin* ベッピンアカコメツキと思われる1頭の雄資料を見いだしたのである。採集地が大阪の金剛山という、これまでこのグループの採集記録のない地域のもので、当初は*A. optabilis* だろう位に軽く考えて、あまり気に掛けていなかったものである。早速詳細に検討した結果、間違いなくこの種の雄であり、記載後初めての標本であるばかりでなく、雄の得られたのも初めてであった。標本は水野弘造氏を通して筆者の手元に入ったもので、採集者は熱心な甲虫愛好者である西宮市の田中 勇氏、採地は大阪府千早赤阪村金剛山である。貴重な資料なので、取りあえず記録として残しておくため、その概要を報告しておくこととした。なお、同時に砺波市の北山征三郎氏の採集された富山産の雌個体も検し得たので、一緒に発表しておくこととする。ご両氏には深い謝意を表する次第である。

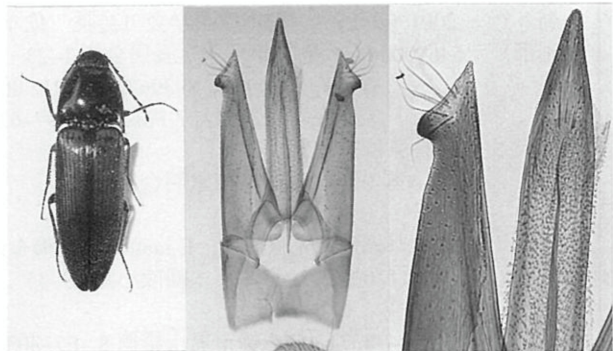
Ampedus (Ampedus) beppin KISHII, 1992

ベッピンアカコメツキ

1♂, 大阪府千早赤阪村金剛山, 17. IV. 1995, 田中勇 leg. (11.9mm) (写真)

1♀, 富山県利賀村大勘場, 13.V.1979, 北村征三郎 leg. (11.5mm)

雄個体は雌(京都産個体)よりやや小型で、上翅の色彩は同じであるが、中央会合線部の第一間室が翅端近くまで暗色で、2頭の副模式標本の内の1頭とよく似ている。この特徴は他のアカコメツキ類でも時に見いだされ、特に *A. gozaishi* ゴザイシアカコメツキではこの傾



ベッピンアカコメツキ, 中と右は♂交尾器

向が強い。また、前胸背板の点刻は雌より小型でやや疎である。生殖器構造は写真で示したが、側片先端の形状が *optabilis*, *fagi*, *akaashi* 等と同系の形状でよく似ている。しかし、中片先端はより太く、側片先端の側方突起はより側方に突出している。また、富山県産の雌は京都の資料より小型で、上翅の色彩はより赤味が強く、貯精囊内の刺状突起(京都産:ca.60~70, 富山産:ca.50)はより少数であるが形状などの特徴は同じであり、同種と判断したものである。

参考文献

KISHII, T. 1982. New species and new records of Elateridae from Japan (Coleoptera). Some new forms of Elateridae in Japan (XVI). Bulletin of the Heian High School, 26: 35-55. (きしい たかし)

会 報

発行: 2001.06.15. 日本甲虫学会(会長 佐々治寛之)
 (本部) 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付
 振替口座: 00990-8-39672 URL: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>
 Tel: 06-6697-6221 Fax: 06-6697-6225 E-mail: shiyake@mus-nh.city.osaka.jp
 昆虫学評論原稿送付先(英文)
 〒666-0116 川西市水明台 3-1-73 林 靖彦 Tel. 0727-93-3712
 E-mail: hayashiy@silver.ocn.ne.jp
 ねじればね原稿送付先(和文, E-mailでの投稿を歓迎します)
 〒611-0002 宇治市木幡熊小路 19-35 水野弘造 Tel.(Fax) 0774-32-4929
 E-mail: kzmizuno@oak.ocn.ne.jp
 〒614-8371 八幡市男山雄徳 8 E7-303 伊藤建夫 Tel.(Fax) 075-983-3491
 E-mail: itokyoto@gb3.so-net.ne.jp
 入会及び会費問合せ先(年会費 5,000 円, 入会金は不要)
 〒590-0144 堺市赤坂台 1-18-5 野村英世 Tel. 0722-98-4066